

小中一貫教育の推進と「宇治学」の取組

～宇治で学ぶ 宇治を学ぶ 宇治のために学ぶ～

地域の
特色ある
活動

京都府宇治市教育委員会

1 はじめに

京都府宇治市は、昭和 26 年 3 月に誕生し、人口は平成 22 年の 19 万 3 千人をピークに減少に転じ、現在は 18 万 6 千人のまちです。市立幼・小・中学校園の状況は、4 幼稚園、22 小学校、10 中学校の計 36 校園であり、令和元年 5 月 1 日現在の児童生徒数は、幼小中合わせて、14,566 人、教職員数は、非常勤、市費職員合わせて 1,150 人です。

2 本市の特色ある取組

(1) 小中一貫教育

本市では、平成 24 年度より、小中一貫教育を市内全ての小中学校で実施しており、「学校が変わり、地域が変わり、そして、子どもたちが光り輝く小中一貫教育」を目標とし、「将来の夢を持ち、自己実現に向けた努力ができる子ども」の育成を目指しています。

9 年間を見通した系統的・継続的な学習指導、生徒指導により、確かな学力の育成、児童生徒の個性の伸長と社会的な資質・能力の育成などをねらいとするとともに、小中学校の教員が相互に交流を深めることにより、教職員の資質と指導力の向上を図ることもねらいとしています。

また、中学校ブロック（2 小学校・1 中学校を基本）を単位とした地域の諸団体や保護者相互の連携を深めることにより、学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくりを推進しています。

さらに、平成 24 年度には、施設一体型の

小中一貫教育校「宇治黄檗学園」（宇治小学校・黄檗中学校）を開校し、小学校・中学校の教職員が常に一緒にいることにより、他の中学校ブロックに比して、より強固な連携と体制により小中一貫教育を実践しています。

(2) 「宇治学」の推進

先述の小中一貫教育の特色ある教育活動として、「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」をコンセプトとした「宇治学」に取り組んでいます。本市では、いわゆる総合的な学習の時間を「宇治学」と称しています。この「宇治学」において、児童生徒が地域社会の一員としての自覚をもち、ふるさと宇治をよく知り、諸問題に目を向け、探究的な見方・考え方を働かせ、主体的・創造的・協働的に取り組むことで、よりよく問題を解決する資質や能力を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることを目標に取り組んでいます。

「宇治学」の特色としては、地元の京都文教大学（平成 22 年 2 月宇治市と「連携協力に関する協定」締結）の協力のもと、小学校 3 年から中学校 3 年までの 7 つの学年の「宇治学」副読本を作成し、授業に活用していることです。

京都文教大学では、文部科学省から官民連携による「宇治学」副読本作成と現場での活用に関する研究（平成 26 年度～28 年度）の指定等を受けられ、大学と本市の共同研究として編集が進められました。

この副読本は、本市の地域素材や地域活動

を取り入れた探究的な学習を進めるための副読本であり、新学習指導要領の趣旨にも合致する主体的・対話的で深い学びを具現化するものとなっています。さらに、大きな特色として、教職員の負担の軽減と資質の向上にも資するために、指導の手引きも合わせて作成しました。

平成30年度末で、全7学年の副読本が完成し、令和元年度から全ての学年において、テーマごとに「宇治学」の取組を推進しています。

学年	テーマ
3	宇治茶のステキをつたえよう
4	発見!!「ふるさと宇治」の自然をつたえよう
5	「ふるさと宇治」をすべての人にやさしいまちに
6	「ふるさと宇治」の魅力大発信
7(中1)	命 そして「ふるさと宇治」を守る ～私たち中学生としてできること～
8(中2)	「ふるさと宇治」と生きる ～これからの自分の生き方を考える～
9(中3)	「ふるさと宇治」の未来 ～私たちができること～



宇治学副読本

(3) 「スクール・サイエンス・サポート事業」の推進

京都大学宇治キャンパス（平成26年11月宇治市と「包括連携協定」締結）との連携事業では、小中学校の教員研修をはじめ、小中学生を対象とした理科教室の開催、幼稚園への出前講座などを実施しています。

平成30年度の小学生の理科教室のテーマ

は「食糧生産を支える小さな生き物」で、児童はグループに分かれて、大豆や落花生、インゲン等マメ科植物に着生する「根粒」を観察し、根粒菌の働きが食物の生産性に寄与していることを目で見て実感していました。また、中学生理科教室のテーマは「レーザーを使ってナノ材料を作ろう」で、高速回転装置で金属液の水分を弾き飛ばし金属膜を作る工程を観察したり、透明の金属膜が、レーザー光線により赤色の「ナノ物質」にかわる様子を見学し、めったに見ることのできない超ミクロの世界を緊張した様子で体感していました。子供たちからは、わくわく感や驚きの感想、理科が好きになった、実験が楽しかったなどの感想が寄せられています。

宇治キャンパスに集まる化学、エネルギー工学、防災、生存圏の4研究所の高度な知的資源を本市の教育、次代を担う子供たちの未来を拓くために生かすこの事業は、魅力的であり、子供の理科離れが叫ばれる中、理科教育の底上げに大いに期待しているところです。

3 おわりに

今後におきましても、小中一貫教育の手法を生かした宇治ならではのアプローチによる取組を一層推進し、何よりも、児童生徒の学力向上につなげるよう取り組んでまいりたいと考えています。

教育長

岸本文子

